


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

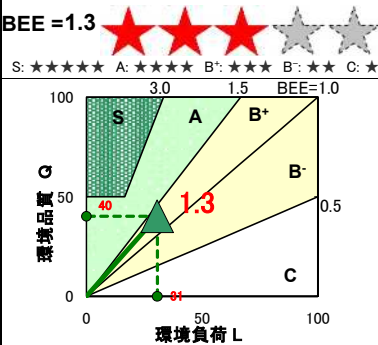
■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	友新精機 株式会社 第五工場	階数	地下1階地上1階		
建設地	愛知県 豊田市 前林町 立伏 12番地5 他27筆	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域、第22条区域	平均居住人員	6人		
気候区分	6地域	年間使用時間	1,854 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2026年1月6日		
敷地面積	16,635 m <sup>2</sup>	作成者	松浦 孔明		
建築面積	1,371 m <sup>2</sup>	確認日	2026年1月6日		
延床面積	2,473 m <sup>2</sup>	確認者	小藤 隆朝		

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 79%

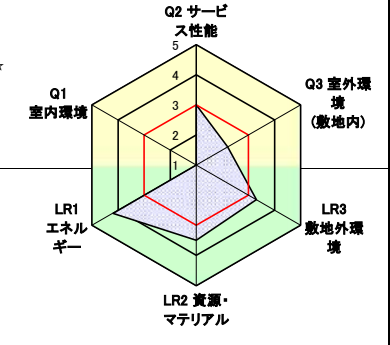
③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

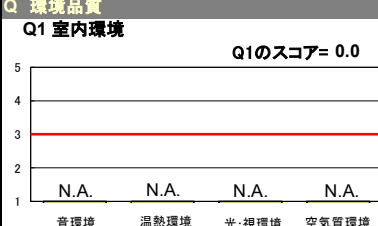


### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

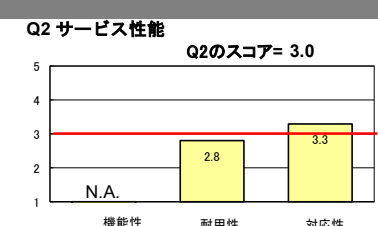
#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0



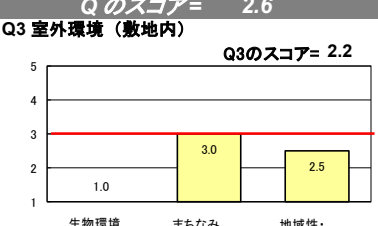
#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0



#### Q3 室外環境(敷地内)

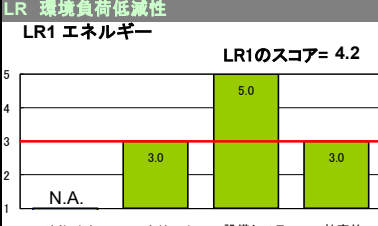
Q3のスコア= 2.2



**LR のスコア = 3.7**

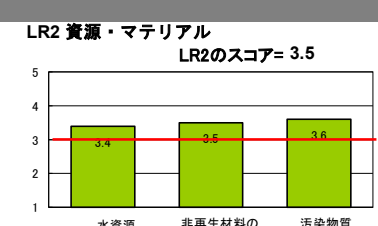
#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2



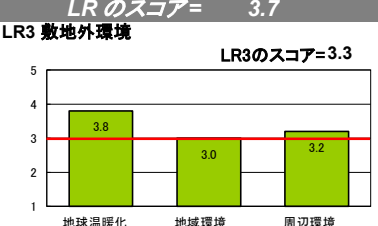
#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5



#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.8</p> 	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>35.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p> 	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
友新精機株式会社 第五工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.3	0.48	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高4300とした		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率を0.12とした		4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	2.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			ケーブルラック、レースウェイ、電線管敷設を計画した 仕上げ材が無いため、仕上げ材を痛めることが無い		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	-	0.57	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.7
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.56		3.0	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			大便器を節水便器とした		3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			② 独自		3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	3.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自	3.0	5.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			GWP1の素材を使用した		-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率79%		3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				燃焼設備の設置無し		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	地下貯留施設を設けた		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音			独自			3.0	0.33	-	-	
2 振動			独自			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭						3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						-	-	-	-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				広告物照明なし		5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

友新精機 株式会社 第五工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:35.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 友新精機 株式会社 第五工場

計画上の配慮事項	
総合	設備システムの効率化を図り、エネルギー使用量を削減している。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	快適な執務環境にするため、ゆとりある階高、天井高とし、フレキシビリティの向上に配慮した計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	周囲の環境に配慮した落ち着いた色彩計画としている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど、設備システムの効率化に配慮をしている。
LR2 資源・マテリアル	節水型の機器を用いるなど、水資源の保護に努めている。
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。
その他	